

## 「東日本に勇気と希望を」 プロジェクトを通じた震災復興支援

昨年3月11日に発生した東日本大震災の被災地や被災された方々に対して、国際開発センターはさまざまな支援を行ってきた。そのひとつが「東日本に勇気と希望を」プロジェクトを通じた支援である。

本プロジェクトは、復興支援シールを作成・販売して、その売上げを被災地域の雇用の増大に寄与する活動に寄付するものである。このシールを購入した企業は、製品に貼ってスーパーの店頭などで販売する。復興支援に関心のある消費者は、そうした製品を優先的に購入することで、通常の「買い物」を通じて被災地への支援を行うことができる。

本プロジェクトは昨年8月に始まり、入山映氏（元笹川平和財団理事長）、高橋陽子氏（公益社団法人日本フィランソロピー協会理事長）、西出順郎氏（岩手県立大学総合政策学部准教授）の3人で構成される運営委員会がその運営に当たっている。また、女優の秋吉久美子氏、（株）トラベル東北社長の山口ステーブ氏など多彩な顔ぶれがサポーターとなって下さっている。当センターは本プロジェクトの事務局を務めており、事業の

企画・運営、ホームページなどによる情報発信のほか、企業への参加の呼びかけ、サポーターの招聘なども積極的に行っている。

本プロジェクトはマスコミにも注目され、運営委員長である入山氏のインタビュー記事が11月16日に東京新聞、中日新聞に掲載された。本シールは既に一部の書籍で導入されており、書籍価格の1%が著者の印税から本プロジェクトに寄付された。12月には矢作建設工業株式会社（名古屋市）が工事現場の囲い板に本シールを貼ることを通じた寄付を行うことを決定し、1,000枚のステッカーを作成した。2月には公益社団法人鉄道貨物協会（千代田区）が、同協会の機関誌にシールを貼ることになり、シールを400枚作成した。

これらの活動を通じて集まった寄付金は、運営委員会で協議の

上、2月に合同会社オーガッツ（石巻市、<http://oh-guts.jp/>）および一般社団法人おらが大槌夢広場（岩手県大槌町）に送金した。オーガッツは震災後に石巻市雄勝地区の水産業復興のために設立された合同会社で、これまで漁師が個人で行ってきた漁業・養殖業を、組織のメリットを生かして計画的に行えるような新しい漁業（養殖や水産加工）のビジネスモデルの構築を目指している。カキ、ホタテ、ワカメなど、季節ごとに異なる養殖の作業を、年間を通じた事業計画として体系化することにより、地元の臨時雇用（日雇い）を少しでも安定したものにしようと取り組んでいる。2月から3月は、ワカメ種の分散作業、桁網に巻きつける作業の時期であり、来年以降の収益確保のためにも、多くの労力を必要

としている。今回の支援金は地元住民3人をそれぞれ約20日間雇用することに使われた。

他方、おらが大槌夢広場（<http://www.oraga-otsuchi.jp/>）は、震災後に大槌町の産業の再建と生活・雇用支援を目的として設立され、最も津波被害が大きかった沿岸部の一角に開設された「復興食堂」の運営が活動の中心となっている。この復興食堂は被災地に常設された初めての食堂で、

人と人の交流を復活させる場として、また、店舗を失った飲食亭主などに「もう一度店舗を再生しよう」という勇気を与える場として使われている。三陸の食材をふんだんに使ったメニューを工夫し、地元の人だけでなく、県外の人にも三陸の幸の魅力を知ってもらう場となっている。食堂の営業をしていく中で、食材を保管する冷蔵設備や、スタッフの休憩・着替えの場所がないといった課題を抱えており、今回の支援金はこうした課題への対処に当てられた。

本プロジェクトを通じた支援に関心のある方は、ホームページ（<http://www.idcj.or.jp/fukkoshien/>）をご覧の上、当センターまでご連絡下さい。

